

第5・6学年 国語科複式学習指導案

学校名 川内市立寄田小学校

教 諭 中屋 友厚

<第5学年>

- 1 単元名 地球環境について考えよう
教材名 「一秒が一年をこわす」
「ホタルのすむ水辺」
「子ども環境会議を開こう」
- 2 単元の目標
 - 文章構成を調べたり，繰り返されたり言い換えられたりしている叙述や段落を関連付けたりする活動を通して，要旨をとらえることができる。
 - これからの地球環境を考えるために，調べたことをもとにした50年後の自分への手紙を書くことができる。
 - 環境問題について，根拠を明らかにして話したり，自分の考えと関連付けて聞いたりして話し合い，自分の考えを深めることができる。
 - 適切な言葉遣いで話したり，指示語や接続語を正しく使ったりすることができる。

3 単元について

本単元は，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と1言語事項が，環境問題について考える（5年），言葉と文化について考える（6年）という目的によって総合・統合されるように単元を構想した。

5年生では，「50年後の地球環境はどうなるのか」という論題について自分の考えを深めるために，6年生では，言葉と文化についての考えを深めるために，読んだり，書いたり，話し合ったりする言語活動を行う。各言語活動を通して，自分の考えの変容を確かめながら学習を進めさせていく。

読むことでは，事例とまとめの部分や言い換えてある部分，さらに，事実と感想・意見などを関連付けて読むことができるようにする。関連付けて読むことによって，筆者が繰り返し述べていることが分かり，要旨をとらえることができる（5年）。また，具体的な事例とまとめの関係が分かり，文章を要約することができる（6年）。

書くことでは，自分の考えを伝えるための構成（形式）を工夫させたい。5年生では，「50年後の自分への手紙」を書かせる。6年生では，目的に応じて，調べたことを編集する学習をさせる。どちらも形式を先に決め，書く内容を作らせるようにしたい。

話すこと・聞くことでは，自分の考えと関連付けた話し合いをさせたい。少人数なので，5・6年合同のポスターセッションの形態で話し合いをさせ，その話し合いを通して自分の考えを深めさせたい。終末では，各言語活動によって，自分の考えがどのように深まったり広がったりしてきたかを自己評価させる。

4 デジタルコンテンツの活用について

複式学級においては，「主体的な学び」の力が大変重要である。本単元では，自分の論点について調べるためにインターネットを活用させる。その際，まとめる形式を先に決めさせ，その形式に沿って内容を調べさせていく。こうすることで，目的に応じた追究学習ができると考える。

5年生では，環境問題を調べるために，「環境問題の部屋」「エネルギー・環境学習塾」「ふかめて広がる環境ネット」等を，6年生では，外来語を調べるために「外来語と日本文化」「日本を読むー外来語について」等を，俳句を調べるために「バーチャル歳時記」「こどもたんかひろば」等を活用させる。

<第6学年>

- 1 単元名 言葉と文化について考えよう
教材名 「外来語と日本文化」
「現代を生きる，五音・七音」
「言葉と文化展示館へようこそ」
- 2 単元の目標
 - 文章構成を調べたり，繰り返されたり言い換えられたりしている叙述や段落を関連付けたりする活動を通して，全体を要約し，要旨をとらえることができる。
 - 言葉と文化について調べたことを，自分の目的に応じて編集することができる。
 - 言葉と文化について調べたことを，プレゼンテーションを工夫して発表することができる。
 - 五音・七音のリズムのある言葉をさがし，声に出して読んだり，歌ったりして楽しむことができる。

5 単元の指導計画（全13時間）

過程	時	主な学習活動 (5年)	主な学習活動 (6年)	複式指導上の留意点
一次	1	1 今問題になっている環境問題について話し合う。 2 50年後の地球について考え、作文を書く。	1 外来語とは何かを知る。 2 「ライスとごはん」「野球とベースボール」などの違いについての作文を書く。	○5年生の学習には、6年生からの学習経験の情報を活用させる。
	2	1 作文を交流し、地球環境についての考えを深めていく計画を立てる。 2 自分の考えを深める方法を話し合う。 3 単元の学習課題を決める。 50年後の地球環境について自分の考えを深めよう。	1 作文を交流し、外来語と日本文化についての考えを深めていく計画を立てる。 2 自分の考えを深める方法を話し合う。 3 単元の学習課題を決める。 言葉と文化について自分の考えを深めよう	○考えを深める方法として、①話し合う、②読む、③調べる、④書くなどの言語活動があることに気づかせ、それらの言語活動を通して、考えを深めていくという学習計画を立てさせる。
	3	1 「一秒が一年をこわす」の学習計画を話し合う。 2 新出語句や語句の意味を調べて理解する。	1 「外来語と日本文化」の学習計画を話し合う。 2 新出語句や語句の意味を調べて理解する。	○ 要旨をとらえることを読みの目的にさせる。
二次	4	1 1のまとまりの構成を調べる。 2 1のまとまりを要約する。	1 形式段落のつながりを調べる。 2 全体構成を調べる。	○要旨をとらえる方法の例 ① 形式段落のつながりを調べる。 ② 各段落の文同士の関係を調べ要点をとらえる。 ③ 具体的事例とまとめの部分の関係をつかむ。 ④ 繰り返し述べている部分を見つける。
	5	1 2のまとまりを要約する。 2 1のまとまりと関連づける。	1 形式段落の中の文と文とのつながりを考え、形式段落を要約する。	
	6	1 「一秒」「一年」にたとえているものを読む。 2 1・2のまとまりと関連づけ、要旨をまとめる。	1 全体を要約し、要旨をまとめる。 2 外来語と日本文化について考えたことを書く。	
三次	7	1 身近な環境問題について、自分が考えてみたい論点を決め、自分の考えを作るための計画を立てる。	1 「現代を生きる五音、7音」を読み、日本文化や日本語のリズムに親しむ。	
	8・9	1 自分の考えを作るために、調べたり、これまでの学習と関連づけたりする。	1 言葉と文化についての展示コーナーを作る計画を立てる。 2 目的に応じて外来語辞典やホームページ等を編集する。	○デジタルコンテンツを利用して、自分の考え作りに生かすようにさせる。 ○事実をもとにした自分の考えを持たせる。 ○何を、どう調べるかを決めさせてから、追究学習に入るようにさせる。
	10	1 自分の考えを作る。 2 自分の主張が伝わるようなポスターの見出しを考えたり、資料を集めたりする。	1 編集したものを発表資料にまとめる。	
	11	1 ポスターを書く。 2 ポスターセッションの練習をする。	1 発表内容を要約したリーフレットを作る。 2 発表の練習をする。	○相手意識を持った事実を資料にさせる。
	12	1 ポスターセッションの形で、地球環境について話し合う。 2 50年後の地球環境について話し合う。	1 ポスターセッションの形で、言葉と文化について調べたことを発表する。 2 言葉と文化について考えたことを話し合う。	○5・6年合同で行い、発表内容についての感想を話し合わせる。
	13	1 50年後の自分への手紙を書く。 2 手紙を交流し合い、学習のまとめをする。	1 日本語のよさについて自分の考えを書く。 2 友達の作文を読んで感想を述べ合い、学習のまとめをする。	○同学年だけでなく、異学年交流もさせる。

6 本時（8・9／13）

(1) 目標

<5年>

- 自分の考えを作るために、自分なりの論点から文献やインターネットの資料を調べることができる。

<6年>

- 伝えたいことを決め、調べる方法や発表形態などの計画を立てることができる。
- 目的に応じて資料を編集することができる。

(2) 指導に当たって

5年生は、前時までに環境問題を考えていくための自分の論点を決めている。本時は、自分の論点について文献やインターネットを利用して調べる学習である。ここでは、次のような言語能力の育成をめざしている。一つ目は、文献やホームページの情報を読む力であり、二つ目は、自分の考えを作るための取材力である。文献やホームページの情報を読む際には、環境問題の現状、原因、対策を調べさせる。ここでは、教科書教材で学習した、関連付けながら読み、要旨をとらえる方法を活用させたい。また、自分の考えを作る際には、どのような事実・事象（写真やイラスト、図表、グラフなど）を使うかも考えさせておく。

6年生は、これまでの学習をもとに、言葉と文化について調べる計画を立て、追究させていく。ここでは、自分の興味・関心に基づいて、形式を決め、文献やホームページの情報を編集していくようにさせたい。形式を先に決めることで、調べる内容が明確になる。目的に応じて情報として収集した事実・事象をもとに、自分の考えを作らせるようにする。

デジタルコンテンツを活用する場合、情報を収集するという目的はもちろん、分かりやすい構成の工夫にも目を向けさせ、自分の発表に生かすようにさせたい。

(3) 実際

時間	5年（主な学習活動）	留意点 ※→は教師の動きを示す。	6年（主な学習活動）
10	1 本時のめあてをつかむ。	・ガイド係に進行をさせる。	1 本時のめあてをつかむ。
10	2 自分の論点を発表し合う。		2 言葉と文化の関係についてもっと調べて見たいことや疑問に思ったことを話し合う。
	3 学習方法を確認する。 ・調べる内容 ・情報を読む方法	・現状、原因、対策を調べるように指示する。 ・情報を読む際には、要旨をとらえるようにさせる。	3 自分の論点を決める。
50	4 自分の論点についての情報を収集する。 (1) 現状 (2) 原因 (3) 対策	・文献やデジタルコンテンツを活用させる。 ・現状、原因、対策の項目にしたがって調べさせる。	4 どのように調べていくかを考える。
20	5 調べたことを整理する。 (1) ノートに整理する。 (2) 発表する。	・現状、原因、対策のつながり方を評価し、指導する。	5 形式に従って、外来語辞典やホームページで調べていく。

(4) 評価

<5年>

- ・自分の考えを作るために、自分なりの論点から文献やインターネットの資料を調べることができたか。

<6年>

- ・伝えたいことを決め、調べる方法や発表形態などの計画を立てることができたか。
- ・目的に応じて資料を編集することができたか。